

平成25年度第4回 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議 議事録**《日 時》**

平成26年1月10日（金）15：00～17：10

《場 所》

京都市産業技術研究所 2階多目的ホール

（京都市下京区中堂寺栗田町9-1 京都リサーチパーク9号館南棟）

《出席者》

別紙一覧表参照

《議 事 録》**1 開会****◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト第三課長）**

平成25年度第4回目の「下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議」を開催する。本日の会議は公開となっており、報道機関席及び傍聴席を設けているので御了承願いたい。

それでは、ここからの進行については、谷口座長にお願いしたい。

◆谷口座長

新年の挨拶の時期は、関東は7日まで、関西は小正月までと言われているが、京都はどうか。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

この一年を振り返ると、「京都鉄道博物館」の名称が正式に決まり、いよいよ建設がスタートすることとなった。加えて、中央卸売市場の再整備に向けた検討が今年度から進められている。また、梅小路公園の新しい広場の整備も着々と進み、計画・構想段階であった事業が実施の段階へと着実に移りつつある。

このような中、昨年9月には、東京オリンピックの誘致が決定した。これまでの検討会議においては、もしかすると「グローバルの視点」というものが欠けていたかもしれない。下京区西部エリアは京都の玄関口である京都駅ターミナルも含んでおり、様々な国策も含めて、海外との連携や交流という視点が今後とても重要になると思う。例えば、商店街は「レトロな空間」という位置付けだが、世界から見ると日本の生活文化を象徴するような場であるとも言える。また、角屋などは日本の歴史、文化、武士道等、様々なものを表現する場という見方もできる。そういう視点も大切にしていきたいと思う。

2 議事**（1）地域連携事業の進ちょく状況について（報告）****◆谷口座長**

それでは、議事次第に沿って進行させていただく。報告事項が続くので、質問等があればその都度御発言いただきたい。

まずは、議事（１）「地域連携事業の実施状況」について事務局から報告をお願いします。

― 事務局から、資料 2に基づき説明 ―

◆谷口座長

地域連携事業のマップと回遊型イベントについての実施状況について報告いただいた。マップは既に出来上がり各所で配布しており、回遊型イベントも後１回を残すというところである。何か御質問や御意見があればお聞かせ願いたい。

◆市村委員

印刷部数が少ないのかと思い、当初は６商店街の役員会のみでマップを配布していたが、後日残部があると聞いたので追加部数をいただいた。しかし、今日話を聞けば、まだ３万部の残りがあるということである。すぐに使えなくなるようなマップではないので、もう少し積極的に商店街にばらまいて欲しい。

◆谷口座長

商店街と少し連携が取れていないようだが。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト第三課長）

１２月段階で取組の総括を行った際、追加でマップ配布のお願いをしている。必要部数があればお持ちさせていただくので、引き続き御協力をお願いしたい。

◆谷口座長

商店街の各店舗でお客様にマップを配布されるのか。

◆市村委員

６商店街にマップをばらまいたが、各商店街に配った数が少ないので追加をいただきたい。

◆谷口座長

商店街においても、役員の方だけでなく個々の商店１軒１軒にも関心をお持ちいただき、お客様への配布に御協力いただけるとありがたい。

その他、ウォークツアーで回遊ポイントになっている施設の方等、御意見はいかがか。「ツアーやマップでこんな反響があった」といったことがあれば、教えていただきたい。

太田委員、龍谷ミュージアムはどうか。

◆太田委員

当初第６回ツアーで回遊先の１つに龍谷ミュージアムを御予定いただいていたが、ツアー内容が変更になったため、お越しになる機会はなかった。

◆谷口座長

その他、いかがか。

今回はモデル事業という位置付けで、行政の予算で委託事業として実施しているが、今後、自主的な資金調達やビジネスとしての事業展開も当然必要になってくると思う。実施する過程で今後の担い手をどうするのかという視点も入れながら、ツアーの中身等について振り返りをしていただきたい。

(2) 基礎調査の実施結果について

◆谷口座長

それでは、議事(2)「基礎調査の実施結果」について報告をお願いします。

― 特定非営利活動法人 京都・地球みらい機構から、資料3に基づき説明 ―

◆谷口座長

主に、この秋に実施した来訪者アンケートの結果等について説明いただいた。御意見・御感想等、何かあればお聞かせ願いたい。

◆高梨委員

今回の基礎調査を通して、例えば、梅小路周辺は近畿圏からの来訪者が多く、両本願寺へは全国から人が集まるといったことなどがわかった。来訪者は基本的に自分の興味のある場所へしか行かない。現状、個々の施設はよく知られているが、エリア全体としてプロモーションしていかないと、地域の魅力は伝わらない。その辺り、今後どう情報発信を行っていくかということが1つ大きなテーマになるように思う。散策ルートを作ることも大事だが、まずは多くの人にエリアを知ってもらう機会をたくさん作る。また、マップもただ作るだけでなく、使い勝手の良いように更新していくために継続的なフォローが必要である。では、誰がその担い手となるのか。こういったことが大事になってくるだろう。

基礎調査をきっかけに様々なことがわかったように思う。来年度のことも含めて活性化の議論をするのに良い材料となるのではないか。

◆畠山委員

東本願寺の職員約350人が京都に在住しているが、そのうち8割ほどは他府県からきている。調査結果をお聞きしていると、単独世帯率が高いことと事業所が多いこと、転入率も多いが転出率も多いことがわかる。推測だが、そこには事業所に他府県からの方が転勤等で出入りすることが多いという事情が関係しているのではないだろうか。西本願寺も同じだと思うが、全国から宗教活動のために参拝に来られる方の流入が多く、また、事業所で働く他府県出身の職員たちが、子どもを連れて梅小路公園等に遊びに行くというのはよくある話だ。そのようなパターンが非常に多いのではないかと感じた次第である。

下京区に住む人の中で、仕事の都合で来ている人が全体の何割にあたるかといったようなデータはないのだろうか。

◆特定非営利活動法人 京都・地球みらい機構（吉田参与）

特にそういった公的データはないようである。

◆畠山委員

裏付けとなるデータがないため推測でしかないが、そういったことも視野に入れながら活性化を考えないといけないのではと感じ、発言させていただいた。

◆谷口座長

今の視点はとても大事である。過去に「活性化のターゲットは誰か」という話もあった。下京区西部エリアにおいて職住一致で仕事されている方の中に、他府県から来られている方が多いとなると、そうした方々に対して魅力をどれだけ伝えていくか。次に別の土地へ移られた時に観光大使のような役割を担っていただくためにも、そうした方々にこのエリアの魅力を感じていただくことが必要であるように思う。

その他御意見等いかがか。今日初めてこのデータを皆様に御覧いただいた。また一度しっかり資料に目を通していただくと、次の展開に向けて活かせるようなデータや、逆に課題となりそうな点なども見つかるかと思う。その辺り何かあれば、次回にでもお話しいただきたい。

（３）基礎調査の実施結果について

◆谷口座長

続いて、議事（３）「京都市中央卸売市場第一市場施設整備基本構想（案）」について報告をお願いします。

— 京都市中央卸売市場第一市場 高木次長から、資料 4、資料 5に基づき説明 —

◆谷口座長

中央卸売市場施設整備の検討の過程についてお話いただいた。現在、構想（案）について市民意見募集が行われている。これまでは非公開で議論が進められていたが、意見募集を機に、内容がオープンになった次第である。ぜひ、それぞれの組織・事業所においても周知に御協力いただき、下京区西部エリアでお勤めの方やお住まいの方からたくさんの意見が寄せられたらと思う。その他、御質問や御感想、御意見があればお聞かせ願いたい。

◆山本芳孝委員

築地では観光客をどんどん市場内部へと入れている。客は皆ガイドブックを持って内部を見学し、まぐろのセリの様子などをカメラで撮影している。一方の京都では、特別に申し込みをすれば見学可能と聞いている。第一市場に一般の客ももっと来ることができるようになれば、地域も潤うのではないかと単純に考えているのだが、観光客に市場を開放する・見せるといったことは考えていないのか。

◆高木次長

現状の第一市場は、場内に事業者の運送用モトラや車両が走るなどして非常に危険な状態であるため、観光客の方に入っていただくのは難しい。しかし、第一市場で「食」を見て感じていただくというのは非常に大事な視点であるので、できれば施設整備後に市場見学通路等を作れないかといったことを考えている。

◆谷口座長

ぜひパブリックコメントで意見を述べていただきたいと思う。他はいかがか。

◆高梨委員

一般の方に場内を案内し見学してもらおうという話だが、梅小路公園界隈でイベントが行われる時など市場周辺の行事に合わせ、不定期でも構わないので、徐々に実施していくことが大事である。整備が完了してからやりますというのでは、かなり先の話になってしまう。

先ほどお話しした「エリア全体でのプロモーション」にもつながるが、個々の施設がそれぞれにというのではなく、複数の施設が連携して同時に情報発信・催しを行っていく、そういった工夫をすることができれば、より魅力的になると思う。

◆谷口座長

中央卸売市場の鍋まつりに今年初めて伺ったが、ものすごい数の人で驚いた。来場者は何万人になるのか。

◆高木次長

約8万人ほどである。

◆本政委員

地元には日本で最初に開設された中央市場があるということで、先だって梅小路小学校の6年生の子どもたちを第一市場に連れて行った。実際に動いている中央卸売市場、セリをしている状態などを見せたかったのだが、安全面を考えてのことからか、「見学は午後にしてほしい」と市場から言われた。施設整備の完了が、予定では水産棟が5年後、青果棟は10年以上先になるとのことである。そんなに待ってられないとは言わないが、せっかく整備するのであれば、観光客を含め、地元京都の子どもたちが学べる場として、見学用の施設や歩道のようなものを作ってほしい。「動いている」「生きている」市場を広く見てもらうことについても考えていただきたいと、この機会に申し上げる。

◆高木次長

御指摘いただいたように、市内の小中学校から見学の申込みをいただいております。都度、対応している。セリは早朝に行われることもあって実際の様子を見ることはなかなか難しいが、例えば「あじわい館」で、セリの風景を映像で見ていただくことができるので、疑似的な体験の充実等も含めて、少しでもお子様たちの教育上役に立てよう努めてまいりたい。

◆本政委員

私はやはり、セリの雰囲気を感じられるような体験を子どもたちにさせたいと思う。

◆山本芳孝委員

テレビで見る限り、築地市場では特別な見学用の場所を設けておらず、セリをしている人のすぐそばで観光客らが見学していた。どういう交通整理、安全確保が行われているのかが気になっている。築地を訪れるのは日本人よりも外国人観光客の方が多い。ガイドブックで東京の一押しスポットとして築地が紹介されており、早朝5時であっても見学に訪れるようだ。世界各国の観光客にアナウンサーが築地の感想を尋ねていたが、「素晴らしかった」「セリの様子を見てお腹が減ったのでお寿司を食べて帰る」などと答えていた。築地は車も人も多く、かなり混雑するようであるが、そのような場所で観光客の見学を可能としているのには、何か特別な工夫があるのではないかと。観光客を受入れる仕組みについて、ぜひ築地の例を研究していただきたい。小学生の社会見学についても、早朝5時にというのは無理かもしれないが、併せて検討してほしい。市場が一日でも早く人をひきつけ呼び寄せる資源へと進化することができれば、このエリアの活性化に役立つのではないと思う。

◆谷口座長

市場の検討会議にも出席しているのだが、今頂いたのと同様の意見が市場の会議でも出ている。一方、中央卸売市場の基本的な機能は、「市民への安心安全な食の提供」と「食育」である。そこをきっちりと押さえた上で初めて「観光」の話になるのではないと思う。

もう1点、どうして市場の敷地の中だけの議論になりがちだが、我々検討会議においては、下京区西部エリアの中で第一市場をどう捉え、その機能をどう活かしていくのかという視点から提言を行うことが重要であると思う。そういう意味では、「観光」についても、市場のすぐそばにある商店街との連携、あるいは今後発生する有効活用地をどうするかといった、もう少し幅広の視点からの提案というものがぜひあって欲しい。

大分時間が押しているので、この辺りで次の議題に移りたいと思う。繰り返しになるが、パブリックコメントを実施中なので、ぜひ積極的に御意見をお出しいただきたい。

(4)「6つの資源」の枠を超えた回遊性・連携についての意見交換

◆谷口座長

続いて、議事(4)「『6つの資源』の枠を超えた回遊性・連携について」である〔資料6〕。

今年度この会議は4回目になるが、第2回、第3回の会議で、下京区西部エリアの特徴である「6つの資源」ごとに活性化に向けたアイデアを伺ってきた。今回は、個々の資源の枠を超えた「回遊性・連携」をキーワードに、各委員から御意見を頂戴したい。

では、龍谷ミュージアムの太田委員から順に発表願いたい。

◆太田委員

本日報告のあった来訪者アンケートの結果にも出ているように、我々龍谷ミュージアムについては、まだまだ認知度が上がっていないといった課題がある。

前回は申し上げたことだが、まずは各施設において企画や設備等の充実を図り、魅力向上を進める必要があるだろう。その上で、現状でも高い集客力を有する梅小路公園、あるいは両本願寺をハブとした、面としての情報発信を展開していくことが大切である。

具体的には、本年度実施したエリアマップやウォークツアーといった取組をいかに継続していくかがカギである。例えば、マップは紙媒体として配布するだけでなく、駅も含めた主要施設に固定的に設置・掲示し、そこを訪れた人自身の意志に関わらず見ていただけるようなものにするなどの工夫があっても良いのではないかな。

まずは各施設単体での認知度アップが重要だと申し上げているわけだが、こういった取組を下京区西部エリア全体で、様々な施設が一緒になってやっているということ、エリアとして一括りの活性化の動きがあるということをPRするのも大切であると思う。

◆平野委員

交通アクセス関連ということで、鉄道事業者として様々なことを検討している。またお知らせできるタイミングになったら、情報提供したい。

京都市交通局から、今年3月に京都駅前のバス乗り場の案内サイン等を抜本的に改良するというお話があり、土地の所有者である当社としても出来る限りの協力をしたいと考えている。こうした動きを踏まえ、案内面についてはこの春からより充実が図られていくと思う。

一方で、「歩くまち・京都」の観点から、京都駅あるいは丹波口駅、場合によっては西大路駅から下京区西部エリアに歩いて来られる方が、楽しく歩けるようにするということがまずは重要である。今日、実際に五条通を歩いたが、歩道が広く非常に歩きやすい。それに比べると七条通は歩道の状態があまり良くないように思う。歩道や遊歩道の整備・新設・拡幅などが有効ではないか。御池通も歩くと大変爽快な気分になるし、四条通では車線を一車線減らしてでも安心・安全で快適な歩行空間を確保するといった検討もされている。エリアマップ「京都しもにし通めぐり」では、4つの散策モデルコースを設定しているが、いずれも京都駅、丹波口駅、西大路駅から下京区西部エリアに入り込むルートを表している。七条通だけでなく、この4つのルートをいかに歩きやすく、楽しくするかが大切である。さらに言えば、ストリートアートや、時期によってはイルミネーション等によって通（とお）りに賑わいを創出するソフト面の試みを行うのも楽しいだろう。

七条通が下京区西部エリアを分断していると言ってしまうと言い過ぎだが、なかなか信号が青に変わらないこともあり、行き来がしにくい一面はあろうかと思う。遊歩道や地下道等で七条通の歩行者環境を向上させるということが、エリア内の人の流れ・循環を良くするための工夫として必要ではないかと感じている。

◆中川委員

本日報告のあった来訪者アンケートの結果で、角屋もてなしの文化美術館を来訪された方が、直前に京都水族館や蒸気機関車館、梅小路公園、東寺、東本願寺、西本願寺等々、角屋近辺の施設を訪れていることなどがわかり、非常に興味深い。

下京区西部エリアの「6つの資源」を巡るにはどのような道のりを辿れば良いのか、現状では全くわからない。市の観光の部署が作成した案内板等があるが、小さくてわかりにくい。

しみにしだけの、もう少しわかりやすい案内標識があっても良いように思う。また、カラー舗装や石畳風の舗装等、道路の舗装の仕方にも工夫を凝らし、「この色、この種類の道を通っていけば、必ず6つのエリア（資源）に辿り着ける」というものがあれば、資源間の連携も取りやすくなるのではないか。我々角屋でも、梅小路公園や西本願寺等への行き方について質問を受けることがある。エリアを巡るには、是非わかりやすい標識が必要であると思う。

◆畠山委員

東本願寺を参拝される方の予定はだいたいパターンが決まっており、その中に下京区西部エリア内の観光地が含まれることはほぼない。我々東本願寺としては、「下京区西部エリアにはこんな魅力的なスポットが他にもたくさんある」というアピール・周知に協力していきたいと考えている。具体的には、マップの製作を継続し、東本願寺を訪れる参拝者の方に積極的に配布させていただく、あるいは、旅行業者へのPRも有効ではないだろうか。

来訪者アンケートの結果で「休憩場所やカフェが欲しい」といった要望がたくさんあったようだが、実際にその通りだと思う。現状、このエリアには、ゆっくりとくつろいで休憩をとれるような飲食店等が少なく、私も職場の仲間などと落ち着いて食事ができる場所へ行こうとする際には、もっと北のエリアへ行ってしまう。そういう店舗を開くことのできる環境等についても、考えていく必要があるのではないか。

◆本政委員

エリアマップが、例えば梅小路公園や商店街など、常にどこか決められた場所に置いてあるという状態、平たく言えば案内所のようなものがないか。エリアを巡るウォークツアーなども、毎回そこを受付場所として活用することが出来れば、わかりやすい。

食事や休憩場所については、もう少し家族が楽しめるリーズナブルな店舗の確保が必要であると考えます。

◆京都リサーチパーク(株) 中根氏（鈴川委員代理）

来訪者アンケートの結果にもあるように、リサーチパークはビジネス利用の方がほとんどで、直前・直後に別の施設等を訪れることもほとんどないようである。そういった方の空き時間を少しでも「観光」に持っていく方法はないか、考えている。

1つあると良いと思うのが、パリの「ヴェリブ」と同様のレンタサイクルシステムである。パリの場合は市内に複数の駐輪基地があり、利用を開始した場所以外の基地にも自転車の返却が可能である。例えば「梅小路公園へ行きたい」と思った時に、そこまで気軽に自転車で行けるシステムがあれば、京都駅までの道のりついでに「ちょっと見て行こう」となるのではないか。そういったツールとわかりやすい標識（「〇〇まで△分で行ける」等の情報も載ったもの）が随所にあれば、KRPを訪れるビジネスユースのお客様に、観光としてエリアの他の施設等にも足を延ばしていただけたらと思う。

◆山本芳孝委員

来訪者アンケートの結果を聞き、やはりそうかと感じた。知名度でいえば、水族館や蒸気

機関車館、東・西本願寺などは有名処であると言える。島原も有名な方ではあるが、本願寺などと比べるとまだかなりの差があると思う。

このエリアを訪れる人は何か目的を定めて来訪する人が多い。余った時間を利用してついでに当初の目的外の場所も回ってもらうためには、交通のアクセスが大変重要だと思う。とりわけ年配の方にとっては、エリア内全てを徒歩で観て回ることは無理である。好きな場所で乗り降りできる巡回バスが30分おきに走っているというのが理想的ではあるが、なかなか実現は難しいだろう。レンタサイクルもひとつの手だが、その場合、乗り捨てできるシステムが必須である。京都駅や島原などエリア内に複数の基地があり、どこでも自転車の乗り捨てが可能となれば、比較的低いコストで、どなたも気軽に回遊できるような観光地になれるのではないかと考えている。

また、どのような人を下京区西部エリアへの来訪者と想定して受け入れ・PRをしていくのか。我々旅行業者はまず他府県の方を念頭に置いてしまうが、京都の中でもエリア外に住んでいる方にどんどんこのエリアを観て回っていただき、お金を落としてもらうことが一番である。海外、国内（他府県）、京都府内等々、ターゲットごとに交通の手段も考えないといけない。課題は多いが、この広いエリアをどんどんPRしアクセスも改善して、余暇の時間にもう1箇所目的以外のところも観ていただけるような工夫を考える必要がある。

◆高梨委員

ターゲットに関して言えば、来訪者アンケートの結果から、若い女性など目的を定めずにレンタサイクルで梅小路公園を訪れる方もいることがわかっている。その際にエリアマップがあると、「こんなところもあるのか」、「角屋さんはこんなに近いのか」と回遊の促進につなげることができる。一方で、近畿圏からの来訪者を中心に、「もう一度孫を連れて来たい」などといったリピーターも結構いる。そこで、情報発信の方法と刷新がポイントとなってくるが、地域の新鮮で面白い情報を集め発信する「担い手」がいないと、取組を継続することはできない。一般的なことで勝負するのではなく、下京区西部ならではのもの（そこにしかないもの）をきちんと発信する仕組みを作ること、そのための担い手をどうするか。行政にずっとお金を出してもらえとは限らないので、その辺りをしっかり考える必要がある。

もう一つは、市場のこれからに期待したいが、拠点を作ることが大切である。梅小路公園は整備が進み、どんどん良くなっていくだろう。市場はどうか。一般の方向けの商業スペースの創出を検討するということだが、しっかりとした拠点がないと人は来ないので、今後に期待したい。

◆藤井委員

「6つの資源」の1つ1つの資源の間には、現状あまり関連性がない。関連のない資源間の回遊性を無理に追求しても魅力は生まれないと思う。まずは、個々の施設の魅力向上が必要ではないか。それがやがてエリアの知名度向上へとつながり、周辺の土地活用、店舗形態の変化をも促していく。その過程でエリア全体の魅力が増していくものと考えている。

ベロタクシーは輸送量の制限が大きく、取組としては象徴的なものでしかない。市バスは205、208号系統の利用者が非常に多く、一日乗車券を使って梅小路公園界隈から京都

駅、あるいは烏丸七条まで乗る人もたくさんいるということである。そこで、五条通・西大路通・七条通・烏丸通を巡回するバスを走らせることはできないだろうか。移動時間が短くて済み、水族館や鉄道博物館開業後のお客さんがそのバスに乗ることで、回遊性が生まれると思う。また、話題性の面から、梅小路公園のバスロータリーに充電装置を置いて電気バスを走らせるなど、そういった発想のもとに地域の活性化に取り組むのも面白いかもしれない。

◆歯黒委員

アクセス問題について、梅小路の蒸気機関車を京都駅まで引っ張って来ることができれば話題性は抜群であり、梅小路公園の方へ多くの人を集めることができるのではないかな。かなりハードルが高く夢のような話だが、実現すれば相当インパクトのある事業となる。

エリアの連携については、これまで御意見があったように、まずは各施設がしっかりと魅力の底上げをしていくことが大切である。その上で例えば「京都駅から丹波口駅までJRで移動 → 第一市場・角屋へ徒歩移動、見学 → 梅小路公園からバスで京都駅へ戻る」といった回遊が可能な、施設の入場料、各種交通チケットをセットにしたパスを作るなどして、アクセスの課題解決と連携を図ってはどうか。

また、先ほどしもしにし界限の案内表示が非常にわかりづらいという御意見があった。共通性のあるデザイン、できればこのエリアをイメージするシンボルマークのようなものを作って、案内板やパンフレット等に掲載することができれば、統一感が出て良いと思う。

◆中村委員

京都市内の交通アクセスを考えると、市民・観光客の最大の足となるのはやはり市バスであると思う。市交通局でこの3月に大幅なダイヤ改正を行うとのことであり、岡崎・東山と梅小路エリアとを結ぶシャトルバスを通年で運行する話も聞いている。交通局としっかり連携し、シャトルバスや巡回バス、あるいはバス停の位置等についても検討、改良を加えるなど、まだ改善の余地があると思う。ベロタクシーは輸送力が限定的であり、あまり効果がないという御意見もあったが、これからは高齢者の方がどんどん増えてくる。下京区西部エリアの6つの資源は、健康な方はともかく、高齢者の方が歩いて移動するにはなかなかつらい距離であるので、その部分においてベロタクシーは有効であるのではないかな。ベロタクシーの活用によって、エリアの知名度を上げる効果も期待できると考える。

エリア内の連携については、これまでの会議で「6つの資源」それぞれについて皆様から御意見を頂戴してきたが、やはり梅小路公園がエリアの中心、コアになると考える。年間200万人ほどの来場がある水族館に加え、平成28年春には鉄道博物館も開業し、年間300万人を超える方が梅小路公園を訪れる。来訪者アンケートの結果では、1つの施設でゆったりと過ごす人が多く、なかなか別の施設を回遊する傾向にないとのことであったが、1～2時間の空き時間にもう少し観ることのできる場所があるという情報が、まだ来訪者にうまく伝わっていないように思う。そのため、下京区西部エリアのコアとなる梅小路公園での観光情報発信機能の強化も考えていく必要があるだろう。案内所やボランティアによるコンシェルジュ等を整え、梅小路公園を訪れる300万人の方に、魅力のある資源がすぐ近くにあるということを積極的に発信することが大切であると思う。

◆山本耕治委員

来訪者アンケートの結果によると、今いる施設から次に行く予定の場所は「特にない」という回答が多く、また、移動手段については「徒歩」と答える人が多いようである。徒歩で移動する人の層はかなりあるということなので、次はどうやってその人々を回遊させるかを考えなければならない。既に各施設で様々な取組をされていると思うが、複数の施設が連携してイベントを行うなど、枠を広げて様々なことに取り組み、エリア全体の知名度を更に上げて行くことが必要ではないか。また、若い人の来訪も多いので、ITツールをうまく活用した情報発信も大切である。

もっと言えば、これからこの下京区西部エリアで「プレイヤー」となりうる皆様がここに集まっておられる。「担い手になっても良い」と手を挙げてくださる皆様がだんだんと集まって、様々な活動を企画・立案するようなグループができ、地元の御協力もいただきながら地域を盛り上げていくことが大事ではないだろうか。区役所としても頑張っていきたいと思う。

◆奈倉委員

来訪者アンケートの結果を拝見し気になったのは、直前・直後に行く予定の場所が「特にない」、つまり一箇所のみを訪れる人が多いということである。元々その目的の場所にしか行く気がないのか、あるいは他を知らないから行く場所がないということなのかまでは不明だが、「周辺にはこんな施設がある」と御案内すれば、興味を持って赴いていただける方も恐らくいるだろう。案内をきちんとすることが重要であると感じた。

では、いざ他の施設に行こうとなった場合に、どうやって行くのか。マップ等での情報発信も大事だが、やはりルートバスのような気軽に活用できる交通手段があると、さらに訪れていただきやすくなる。市バスが大幅にダイヤを充実することのことだが、もともと系統や乗り場が非常に複雑で、「何番のバスにどの停留所から乗れば良いか」と迷うことが多く、わかりにくい。例えば、梅田界限では「うめぐるバス」という緑の車体が目印の有料巡回バスが、東京では丸の内や日本橋で無料のシャトルバスが走っている。既存の市バスとは違う色や形で、ひと目でそれとわかる巡回バスが走っているのが理想の姿ではないかと思う。

◆升本委員

来訪者アンケートでは、京都水族館の知名度がかなり高いという結果が出ているが、水族館独自のアンケートなどを見る限り、まだまだ知名度は低いと感じている。営業で旅行代理店等を回ると、姫路以西では京都に水族館があることも知られていないような状況である。梅小路公園自体あまり知られておらず、お客様から「梅小路公園は京都のどこにあるのか」という問い合わせの電話を良くいただき、まだまだ認知が足らないと痛感しているところである。そこで、夏にはマンガミュージアムと連携した展示や体験プログラム等を、秋の紅葉シーズンには緑化協会と連携した夜間延長営業を、その他にも市立芸術大学・市交通局との産官学連携プロジェクトに取り組むなどして、まずは水族館というよりもこの梅小路界限のエリア自体を知っていただくことに注力している。

岡崎の「レッドカーペット」や「マンガ・アニメフェア」など、全国的に知られているイベントの第2会場として梅小路公園を活用していくのはどうか。下京区西部エリアの活性化

ではあるが、他エリアの既に認知されている事業との連携によって、このエリアを多くの人に知らしめていくことも必要であると思う。

我々水族館でもフェイスブックやツイッターを活用しているが、水族館のネタだけでは、情報が届く人の層が限定されてしまう。この冬、コスプレの会場として水族館を提供する催しを行ったが、参加者の方は非常に紳士的で礼儀正しく、館をきれいに使っていたのに加え、館内の写真もきれいに撮っていただいた。そういった方々が、ちょっと変わった視点で水族館の情報を拡散することによって、普段水族館を訪れることの多い層とは違う方々にも、このエリアに興味を持っていただける良いきっかけになったと思う。こうした広がりのある連携を今後も続けていきたい。連携の輪が下京区西部エリア内でどんどん広がっていけば、更に多くのお客様に集まっていたけるのではないかなと思う。

◆佐藤委員

交通アクセス関連について、市バスというツールは回遊するのに有効な手段であるが、「〇系統」という言い方が京都市外の方や観光客にはわかりにくい。それに比べると、今度新設される「岡崎・東山・梅小路エクスプレス」の方が、名称としてはわかりやすく、そこに「しもにし」という地名を何らかの形で入れ込むことができれば、非常に意味のあることであると思う。とりわけ四条烏丸など、市内中心部から梅小路近辺へ行く交通手段が少なく、あったとしても京都駅を経由するなどの手間がかかるのが現状である。他の委員の御意見にもあるように、循環型の交通手段を導入することは非常に有効であると思う。その他、電気自動車のシェアリングなど様々な手法を駆使していけば、交通アクセスは非常に便利になっていくのではないかな。

エリア内の連携・ソフト事業関連について、京都にとって「観光」の視点は切っても切り離せないものである。京都駅は京の玄関口であり、電車にしろバスにしろ、観光で来られる方は必ず下京区西部エリアを通過していく。行き帰りのどちらかで必ずこのエリアに立ち寄っていただけるような仕組みを作っていけたらと考える次第である。例えば、観光客の方は大きな荷物のせいで身動きがとりにくく、宿泊先へ向かう時には市バスではなくタクシー等を利用する方が多い。京都駅から一足先に荷物を宿泊先に送る、あるいは帰りに宿泊先から京都駅へ荷物を送るといったサービス、体一つで下京区西部エリア界隈を1～2時間回っていただけるような仕組みがあれば良いと思う。おそらく観光客の方は、多少のお金をかけても、利便性を優先するだろう。

また、バスで京都へ来られる方は、帰りに堀川通を通り、漬物の西利へ寄っていくパターンが多い。同様に、京都駅へ戻る前に商店街などに集まって買い物をしていただければ、何か工夫はできないだろうか。和食のユネスコ無形文化遺産登録を追い風に、例えば、京果会館や東京オリンピックに向けて取り組まれるという第一市場の賑わいエリア等で、自分で作って持ち帰りも可能な「食」の手づくり体験などを提供するの也不错かもしれない。

◆市村委員

今回の会議は交通アクセスの話などが主なのであるから、市交通局の方がこの場にはいないのは非常に残念である。春からシャトルバスの運行やダイヤの改正等が行われるようだが、

我々のまちづくりとは関連なく動いているように見える。バスの増便1つとっても、商店街の者として意見したいことがある。交通局にはぜひ我々が議論している内容を踏まえてダイヤの改正等を行っていただきたい。

嶋原商店街の私の店に観光客が訪れることがあるのだが、すぐそばに島原大門と柳があるのに、気づく人は少なく、結果私の店が島原の案内所のような状態になっている。このエリアを活性化する際のひとつの課題として考えていきたい。

京都駅から梅小路公園へ向かうバスがあるが、七条大宮で皆降りてしまい、そこから少し下がったあたりの入り口から梅小路公園へ入っていく。水族館ができてその西に位置する我々6つの商店街を訪れる客は増えず、とてもがっかりしている。今後、鉄道博物館が開業すれば、もう少し西までバスに乗っていただけるようになるのではないかな。また、京果会館に飲食店や食関連の物販フロアができるという話も伺っており、期待している。

今後、我々商店街に対して地域の皆様から「商店街にはこういうところが足りない」、「商店街でこんなことをやってほしい」といった御意見・御要望が出てくることがあるだろうし、我々からも他の文化・観光施設について「こうしてほしい、ああしてほしい」と伝えていくことがあろうかと思う。そうやってお互いに具体的かつ建設的な意見を積み上げていかないと、ただ漠然と組織を立ち上げただけでは、地域活性化は進んでいかないと思う次第である。

◆谷口座長

地元で商売をされている皆様からの非常に力の籠った、大事な御意見だったと思う。今回交通局の方は来られていないようだが、下京区西部活性化に関する庁内ワーキンググループのメンバーに、交通局も入っている。観光や文化、建設なども含め、様々な関係部署が活性化に向け連携する体制はあるはずなので、ぜひしっかり取り組んでいただきたい。

さて、皆様と意見交換をと考えていたが、予定の時間をオーバーしている。今日の御意見は事務局でとりまとめ次回会議の場に出していただき、今年度の総括をしたいと思う。

私から1点述べさせていただく。皆様のお話を伺い、各施設それぞれに独自性、魅力がありながら、それがバラバラでエリアとしてのまとまりがないと感じていらっしゃる方が多いと、改めて思った次第である。そこで何が必要かという点、1つには、ユニバーサルで移動しやすい交通アクセスの手段、歩きやすい歩道の整備からバスの活用も含めたハード面をどうしていくかということである。もう1つには、情報発信やウォークツアーといったソフト面から回遊促進を図る取組も大切であり、その両面をしっかりと押さえていく必要がある。今回のテーマはハード整備も関わる話なので、まさしく官民が一体となって取組を進めていかないと活性化は難しいのではないかなという印象を受けた。

(5)「平成26年度の下京区西部エリア活性化の進め方について」

◆谷口座長

続いて、議事(5)「平成26年度の下京区西部エリア活性化の進め方について」である。来年度はどのような取組を、どんな体制で進めていくのか、まずは事務局からの提案について、説明願いたい。

◆谷口座長

大まかに次年度以降の取組に関するお話をいただいた。ゆくゆくはエリアマネジメント組織の設立を目指すということで、先ほども担い手の話があったが、来年度はまさに事業を実施しながら担い手・組織の在り方についても検討するという、とても重要な段階に入っていくことになる。

さて、我々検討会議では、エリアマネジメントの専門家でいらっしゃる京都・地球みらい機構の高梨氏にメンバーとして参画いただいている。本日は高梨委員から御意見をいただき、次回第5回会議、あるいは次年度に向けての学びの場としたいと思う。

◆高梨委員

次年度に向かってということで、少し提案をさせていただきたい。

まず、我々NPO 法人京都・地球みらい機構のことを御紹介させていただく。組織設立は平成24年4月、立命館大学の元副総長で現在は総長特別補佐として国際交流の分野で活躍されているモンテ・カセム氏に理事長に就任いただいている。20名ほどで活動しており、24年度検討会議のワークショップでも、当NPOのメンバーが協力させていただいた。我々の活動目的は、地域の隠れた資源や資産を地域の方と一緒に掘り起こしていくことであり、NPO だからといって言いっぱなしで終わることなく、地元とともに地域連携型の事業を立ち上げていくことを目標にしている。そして、我々は「エリアマネジメント」と呼んでいるが、「①地域の継続的な活性化、成長や管理に取り組むこと」「②新しい技術や地域イノベーションに関するビジネスモデルを作ること」「③地域資産を介した地域交流や国際交流を図ること」の3つのテーマを柱として、実際の事業に取り組んでいる。

具体的な事業展開は主に3つある。まず「地域の継続的な維持・管理事業」として、この下京区西部エリア活性化の検討会議に24・25年度と私が委員として参加させていただいており、途中のワークショップにも、NPO メンバーがファシリテーターとして参加している。今回報告した基礎調査についても、他のNPO との連携の下、しっかりとしたデータが取れたのではないかと考えている。更に、昨年から今年の3月にかけて、下京区役所の活性化機運づくり事業として、両本願寺及び植柳学区の方々と、まちおこしに向けた取組を何度か行っているところである。2つ目に「気候変動が地域資源に与える影響調査事業」として、気候変動による宇治茶の味の変化などを踏まえ、宇治の茶業組合と一緒に調査機を設置するなどして現状を把握するとともに、今後宇治茶を守るにはどうしたら良いかを検討している。3つ目に「地域資源を活かす事業」として、日本庭園の文化・技術の輸出について京都から発信することを目的に、京都の庭園技師や緑化協会と一緒に議論をしている。また、「我が家のひなまつりへようこそ！」という京の食文化と伝統を伝えるイベントにも関わっており、地域の隠れたハード・ソフトの資源を外へとアピールしていくことに取り組んでいる。

さて、昨年度の検討会議でのワークショップや今年度の基礎調査等を通じて、ようやく地域のことがわかってきたように思う。とりわけ、植柳学区の皆様が自分たちの地域をなんとかしたいと、「いちろく市」の取組や京都駅ビルとも連携した催しをされていることなどを

受け、梅小路公園界隈と東西本願寺が、下京区西部エリア活性化の拠点として非常に大事な場所であると感じた。そこで、当 NPO では、東西本願寺門前町の有志の方と一緒にエリアマネジメントの勉強をし、11月には龍谷ミュージアムでまちそだてフォーラムを開催したほか、3月には茶の湯文化の伝統体験も行うなど、地域資源の掘り起こしとプロモーションに向けた具体的な活動を始めているところである。

今後はこれまでに出了様々な活性化のアイデアを具体化していくことが大切である。そのためには、活動しながら考える組織、コアとなる活動組織が必要であり、この検討会議で育んだネットワークが非常に重要になってくると思う。第一市場の再整備がこれから進んでいくが、エリア活性化の活動に市場にも一緒に取り組んでもらえるよう、我々も再整備の動向を見守っていかなければならない。また、今年度作成したエリアマップの評価は非常に高いと聞いているが、これを来年度以降も継続し、より便利で新しい情報へと更新していくためにどうするかということ、更にはマップとアプリの連動といった新しい取組なども考えていく必要があるだろう。先ほど、地域のコンシェルジュといったキーワードも出ていたが、様々な情報を集めて、自分の手で発信しようとする地域の担い手を育てないと、なかなか良い情報は伝わっていかない。来年度は、事業と並行してコアとなる活動組織のあり方についても検討していく必要があると思う。

地域の活動をする時に一番大事なものは、「軽やかに、早く、お金をかけずにやる (LQC= lighter, quicker, cheaper)」ことである。歩道整備など、とりわけハード面の取組には時間もお金もかかり、中々結果が出ない中であきらめてしまいがちだが、何かすぐに取り組めることはないかを考え、実行していく必要がある。そのためには、やはり検討会議のつながりを来年度もちゃんと継続していくことがカギとなる。

もう1点大事なものは、エリアとして共同でプロモーションを行っていくということである。例えば、下京区西部の1日プログラム、あるいは年間プログラムといったものを作って、来訪者がもう一度このエリアを訪れたいくなるきっかけを提供する。エリアは広く、とても一度に全ての資源を見て回ることはできないので、リピーターを期待できるだろう。来年度は活動組織のあり方検討と具体的な地域連携事業を二本立てで行っていくこと、これが大事であると思う。

◆谷口座長

今後の進め方についての御提案ということで、簡潔にわかりやすく御説明いただいた。

会議室でどれだけ議論していてもその場限りの話になるので、そこで出た意見・アイデアを実現していくために、コアとなる活動組織、何らかのまちそだて組織を作っていく必要があるというお話であった。では、その組織を誰が作り、誰が担い手となって、誰がお金を出していくのかという具体的な議論については、おそらく次年度以降の課題になるかと思う。

今の御提案について、何か御質問や感想等はないか。

まだ、この段階での組織の話というのは、抽象的で掴みどころがないところがある。次年度に、もう少し具体的な事例を学びつつ、それを下京区西部エリアに当てはめたらどうなっていくのかということを検討していけたら良いと思う。

(6) その他

◆谷口座長

続いて、議題6に移る。「その他」の案件として、今回は、下京区西部エリアにおける官・民の新しい動きについて、関係者の方や事務局から御報告いただきたい。

◆京都市建設局 的場担当課長

—「梅小路公園」の拡張再整備の進ちよく状況について資料説明—

◆平野委員

—「京都鉄道博物館」の建設に向けた進ちよく状況について資料説明—

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト第三課長）

—「京果会館」のリノベーションプロジェクトについて資料説明—

◆谷口座長

3つの新しい施設の動きについて説明いただいた。何か御意見・御感想があればお聞かせ願いたい。いかがか。

私から1点述べさせていただく。先ほど「京果会館」についての説明があったが、純粋な「民」による先進的な取組であると思う。こういった動きが出てきたことは、下京区西部エリアが活性化の底力を持っていることの表れと言えるのではないか。今、検討会議ではエリアの特徴を「6つの資源」という言葉で表現しているが、これから先その資源が増えていく、あるいは官・民が一緒になって資源を増やしていくという可能性も大いにある。ここは我々の知恵の出し所ではないだろうかと感じた次第である。

以上で、本日予定していた議事はすべて終了とさせていただく。時間の関係もあり、十分に御意見をいただけなかった部分もあると思うが、何かあれば事務局へ、あるいは次回第5回会議の場で御発言いただければと思う。では、事務局に進行をお返りする。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト第三課長）

次回、第5回会議については、3月上旬頃の開催を予定している。第4回までの取組を総括し、事務局で皆様に御提案できる中身を取りまとめたい。

次回会議の日程・場所が決まり次第、改めて案内状をお送りするので、引き続き御協力をお願いしたい。本日はお礼申し上げます。

平成25年度第4回 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議
出席者一覧

(五十音順, 敬称略)

	団 体 名	役 職 名	氏 名
座 長	コミュニティデザイン研究室 同志社大学大学院総合政策科学研究科	代表 客員教授	谷口 知弘
	梅小路活性化委員会	委員長	市村 勝
	大阪ガス(株)	京都地区副支配人, コミュニティ室長	佐藤 尚巧
	オリックス不動産(株)	京都水族館支配人	升本 忠宏
	京都駅ビル開発(株)	取締役営業部長	奈倉 宏治
	京都市	下京区長	山本 耕治
	京都市	総合企画局プロジェクト推進担当部長	中村 豊彦
	(公財)京都市景観・まちづくりセンター	事務局次長	齒黒 健夫
	京都市中央卸売市場第一市場	次長	高木 淳
	京都商工会議所	産業振興部まちづくり推進担当課長	外池 順一
	(公財)京都市都市緑化協会	専務理事	藤井 俊志
	(特活)京都・地球みらい機構	常務理事	高梨 日出夫
	京都府旅行業協同組合	理事長	山本 芳孝
	京都リサーチパーク(株)	営業部長	鈴川 和哉 (代理)
	自治連合会〈大内自治連合会〉	会長	本政 和好
	真宗大谷派(東本願寺)	宗務所総務部出仕	畠山 真
	(公財)角屋保存会	理事長	中川 清生
	西日本旅客鉄道(株)(JR西日本)	近畿統括本部京都支社地域共生室長	平野 剛
	龍谷ミュージアム	事務部次長	太田 功